

Japan Association of Synthetic Anthropology

総合人間学会

Newsletter 第46号 2023年4月30日発行

発行人：古沢広祐

事務局：〒112-86060 文京区白山 5-28-20 東洋大学社会学部社会学科 松崎良美研究室

電話：03-3945-7847 (直通) / ファックス：03-3945-7626

E-mail：contact@synthetic-anthropology.org

【目次】

| | |
|-----------------|------|
| I. 第17回研究大会について | p.1 |
| II. 運営委員会：概要報告 | p.4 |
| VI. 事務局からのお知らせ | p.10 |

I. 第17回研究大会について

1. 大会日程および開催方法についてのご案内

運営委員会における議論を経て、第17回研究大会は2023年6月17・18日にて、すべてオンラインで開催されることになりました。前回同様、オンライン大会では「Zoom」というWeb会議用のアプリケーションソフトを使用する予定です。参加を希望される方には安定したインターネット環境のご準備をお願いします。ご懸念の方は事務局までご相談ください。参加方法などの詳細は大会プログラムでご案内いたしますが、以下に概要をお知らせいたします（以下記載にはNL45号と一部重複する箇所、修正した箇所がございます）。なお、今年度はオンラインで実施するため参加費は徴収いたしません。

◆日程（※は学会員限定）

◇1日目（6月17日）

| | | | | |
|--------------------|-------------|-------------------------|-----------------|----------------|
| 10:00~11:40 | 12:00~12:45 | 13:00~14:00 | 14:00~15:45 | 16:00~17:30 |
| ワークショップA (まなキキ) | ※総会 | シンポジウム第一部 野家啓一さん特別講演 | シンポ第二部 登壇者報告 | シンポ第三部 全体討論 |

◇2日目（6月18日）

| | | | | |
|------------|----|-------------------------|----|-------------------------|
| 9:15~12:30 | | 13:00~15:00 | | 15:15~18:15 |
| ※一般研究発表A・B | 休憩 | ワークショップB (若手ワークショップ) | 休憩 | ワークショップC (国際ワークショップ) |

各会場の詳細については、HP または 5 月末発送の大会プログラムでご確認ください。

2. 大会シンポジウムについて

◆ テーマ

近代的「知」のあり方を問い直す

—授けられる「科学」/「学習」時代に、「学び」はどう対峙する？

◆ 大会シンポジウム企画趣旨

私たちは、そもそも「何をどう学ぶべき」なのだろうか——本来、「学び」とは、統計学的に算出されたデータとサジェスション（提案）によって定まるものではなく、学ぶ主体である本人が、胸に秘めた情熱のままに没頭し、探求していく過程によって深め・広げられていくような営みではなかったか。そこでの「学び」は、制度化されたカリキュラムの枠組みだけに収まるようなものではなく、自由に構想され、思い描かれるものではなかっただろうか。各々が抱く、抜き差しならない問題関心の対峙の果てに、その解き明かした“知”を、時空を超えて引継ぎ、共有し、その真理を究明していく作法として、たとえば近代的な科学的知なども、本来築かれてきたのではないだろうか。

実際に、人が生きていくうえで「学び」は、環境や風土に働きかけられ、働きかけつつ、多様な形で文明・文化の中で実践され、また蓄積されてきたといえよう。ただし、今日では、「学び」という言葉は「学校教育」を通じて“与えられる”ものとして捉えられがちだ。もちろん、そのような「学び」は、私たちの社会をこれから先も適切に機能させていくうえでも、社会の構成員を再生産する観点からも必要な装置の一つだ。私たちは「学校」などに代表される場を通じて、学ぶ作法や論じ方を学び、実践してきたのである。

ところが、「学校」が学歴社会や格差などといったある種の“断絶”の種になるようなものの再生産に寄与してはいないか、という議論も湧き出ている。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って現出した学びの場における変化も「学びのありよう」に大きな変質をもたらすことが懸念されている。もし「学び」に向き合う態度や意志が、単純に“与えられる”ものと錯覚されてしまうような事態があるのであれば、それは今日における「学び」や「知」をめぐる“危機”的状況として捉えられるのではないだろうか。

人が生きていくうえで欠かすことのできないような、営みとしての「知」や「学び」は、実は「学校」制度などの枠を超えてかつて存在し、今も脈々と受け継がれているのではないか。そして、新たな挑戦的な試みも様々な文脈の中で発現しているのではないだろうか。教育学的な観点における「学び」とは別に、また、その「学び」が実践されてきた時代を問わず、様々な場面で蓄積されてきた学びの実践を参照し考えていく試みを通じて、この危機の時代に対峙し、生きた実践を投じていくための「学び」のありようを議論することができるのではないか。

シンポジウムでは、「知」のあり方を問い、「学び」を多義的に捉え直すことを目指し、さまざまな具体的な実践や問題意識を共有していく。そこから改めて「学び」の持つ本質的意味を考え、「学び」とは何か、ひいてはそうした営みを実践する人間存在とは何か、というところまで射程に含めて、議論していくことを目指したい。

◇ 1 日目 (6 月 17 日)

- 10:00～11:40 WS(A) コミュニティとの連携から考える「学び」のあり方
—まなキキ・フォスタープランとオンライン社会科見学の実践から
(報告) 濱松 若葉さん (津田塾大学大学院国際関係学研究科)
江頭 早紀さん (津田塾大学大学院国際関係学研究科)
柴田 邦臣さん (津田塾大学)
(司会) 松崎 良美さん (東洋大学)

- 12:00～12:45 総会
- 13:00～14:00 シンポジウム第一部 特別講演
近代知を unlearn する
野家 啓一さん (科学哲学、東北大学名誉教授、本学会顧問)
- 14:00～15:45 シンポジウム第二部 登壇者講演
- 報告1 妊娠・出産・子育てをめぐる「知」のあり方を考える
——誰から、どのように学ぶのか
松本 亜紀さん (歴史学・民俗学、倫理研究所・倫理文化研究センター 専門研究員)
- 報告2 「アイヌ民族博物館」をめぐる民族教育の可能性
——自文化への「学び」はいかにつくられたのか
岡 健吾さん (社会学・教育学、北翔大学教育文化学部 准教授)
- 報告3 Learner Directed 教育と当事者研究・・・知は誰(ため)のものか
朝倉 景樹さん (東京シュレー理事、TDU・零穿(てきせん) 大学代表)
- 15:45～16:00 休憩
- 16:00～17:30 シンポジウム第三部 パネルディスカッション・全体討論
(コメンテーター) 楊 逸帆(アトラ・ヨウ)さん (台湾・青醒人共生文化智库)
野家 啓一さん (東北大学名誉教授)
(司会) 松崎 良美さん (東洋大学)
上柿 崇英さん (大阪公立大学)

◇ 2 日目 (6 月 18 日)

- 09:15～12:30 一般研究発表 A/B (2 会場、各 5 枠)
一般研究発表は 1 セッション 35 分(発表 25 分、質疑 10 分)、入替時間 5 分です。
- 13:00～15:00 WS(B) 持続可能性を問い直す——地域からの再検討
若手 WS
(報告) 井上 浩朗さん (東京大学大学院総合文化研究科)
横山 智樹さん (高崎経済大学 学振 PD)
高橋 知花さん (東北大学)
(司会) 本多 俊貴さん (拓殖大学非常勤講師)
- 15:15～18:15 WS(C) (仮) 学校体系に再生産される世界的問題とそれから脱却する可能性
国際 WS ——オルタナティブ(代案・実験)教育からの試み
- 報告1 王 美玲(ワ・メイリン)さん (台湾・淡江大学日本語学科)
- 報告2 李 静湖(イ・ジョンホ)さん (韓国・釜山全学びの場オルタナティブ大学)
- 報告3 Du-Heon Park さん、Song-Ju Choi さん (韓国・知識循環協同組合オルタナティブ大学)
(コメンテーター) 朝倉 景樹さん (日本・TDU 零穿大学)
(司会) 楊 逸帆(アトラ・ヨウ)さん (台湾・青醒人共生文化智库)

3. 2023 年第 17 回研究大会 アルバイト (有給) 募集のお知らせ

6 月 17・18 日に開催される第 17 回研究大会のアルバイト (有給) を募集します。

◆ (仕事内容)

以下の時間における Zoom 入室管理および共有設定等のサポート。なお、時間は今後変更となる場合があ

ります。

6月17日 13:00-17:30

6月18日 12:30-17:30

ホスト権限または共同ホスト権限を付与しますので、事前申込者名簿をみながら待機室に入ってきた入室希望者を入室許可して頂く作業をメインに行って頂きます。

◆ (時給)

2,000円

オンライン開催のため、後日銀行振込によってお支払い致します。

◆ (その他)

希望者には、大会開催後に事務局幹事のお仕事をご紹介することが可能です。特に、学会内での人脈形成や研究交流を希望する院生や若手研究者のご応募をお待ちしております。

II. 運営委員会：概要報告

2022年度 第4回理事会・運営委員会

日時 2023年2月11日 13時15分～15時45分

場所 Zoom

出席 23名 (役員表順・敬称略)

古沢広祐 黒須三恵 河上睦子 長谷場健 太田 明 小原由美子 木村武史 鈴木伸国
中村 俊 本多俊貴 松崎良美 岩田好宏 上柿崇英 蔭木達也 北見秀司 鬼頭孝佳
菊池理夫 近藤弘美 佐貫浩 関陽子 田中昌弥 楊逸帆 柳沢遊

報告事項

1. 事務局 (鈴木事務局長)

- ・今年度の予算執行、会費徴収の状況：概況が説明された。
- ・会費納入状況：延納会員からの支払いが進んだこともあり、若干の改善が見られた。
- ・事務業務概況
 - － 協力理事の協力もあり、円滑に進んだ。宛先不明のメール不達は解消されている。
 - － 学会誌の不達などの不備が発生したが事務局で対応した。
- ・NL46号案、大会予告、出版企画委員会・KW委員会等の行事予定、11月運営委員会議事が報告された。

2. 各種委員会

1) 編集委員会 (河上委員長)

- ・投稿論文の再査読が終了した。2月19日の編集委員会で最終的な決定を下す。
- ・投稿者が多かったが途中で断念される方も多かった。
- ・小原名誉会員の追悼文の掲載を、『総合人間学』に掲載するかNLに掲載するかを検討している。
 - － 学術誌に掲載の場合は19日までに編集委員会に連絡することとした。
 - － 掲載方法や刊行について臨時運営委員会で検討する案も出ており、可能性を検討している。
- ・J-Stage掲載について、掲載スタイルは一度登録すると変更ができない。
 - － J-stage掲載手続きについて河野理事の監督のもと、楊理事と蔭木理事が中心となって調整を進

めることになった。

- － 全事項を登録することを前提とし、その段取りや必要情報収集のロジスティクスを検討する。

2) 出版企画委員会（中村委員長）

- ・ 冊子体 17 号の編集方針を昨年 12 月 19 日の出版企画委員会、大会シンポジウム準備委員会の合同オンライン会議で最終的に決定した。執筆者には原稿依頼を済ませている。
- ・ 2 月末締め切り 6 月出版を目指している（大会前に発送できると望ましい）。
 - － 「本の泉社」からの出版を予定している。
 - － 経費の関係で 144 頁に収める方針である。
 - － 書籍の学会員への配送に課題が発見された。事務局からの配送に戻す可能性もある。
- ・ 執筆者の選出過程の議論が、ブレインストーミングなのか、依頼なのか、決定なのか曖昧だった。
 - － オンライン会議なので、とくに会議の目的、議事録の作成、共有などをシステム化する必要がある。

3) KW 集発刊委員会（長谷場委員長）

- ・ 5 名から 8 つのキーワードが寄せられ、現在 3 度目の委員会応答を進めている。3 月いっぱい調整を終了する予定である。
- ・ 次の段階として、さらなるキーワードについて、執筆者を選定・依頼を進めていく予定である。
- ・ キーワード公開意見交換会（4 月上旬を予定）は、研究談話委員会とは目的や趣旨が異なるため、共同開催としないこととする。

4) 研究談話委員会（木村委員長）

- ・ 理系の先生方の報告可能性を探ったところ、4 名の方と連絡がとれ、当面 2 名の会員にお話しいただく目途がたった。
- ・ 河上先生のご著書合評会を 4 月の運営委員会の後の時間帯で予定したい。
- ・ その他に、木村理事の知人（非学会員）のお話を予定。
 - － いずれも謝金の支払いはない。

5) 広報委員会（太田委員長）

- ・ ウェブサイトのトップページについて、デザインの見直しを検討する。
 - － 必要な項目などについて提案があれば、太田先生まで連絡すること。
- ・ 各種委員会の会合開催予定などを整理して共有する必要がある。
 - － 蔭木理事より、試験的に Google カレンダーの共有と運用が提案された。

6) 「ハラスメント規約準備委員会広報委員会」構成員候補（河上副会長、本多委員長代行）

- ・ 本多理事が委員長を代行することとなった。

7) 「学会運営・会則等検討委員会」報告（黒須副会長）

- ・ アンケート結果が共有されたので、それを受けて別途コメントなどを受け付ける予定である。
 - － コメント受付の締め切り日などを設けたうえで再度回覧する予定である。
 - － 委員会趣旨などへの前提知識を持たないコメントも散見されるが、挙げられた疑問には逐一回答していく形で整理していく。

3. その他

- ・ 学会設立時にご協力いただき、顧問を務めていただいた水田洋氏（みづた・ひろし=名古屋大名誉教授）が老衰のためご逝去された（2 月 3 日、103 歳）。ご冥福をお祈りします。

- ・日本学術会議への連携会員推薦について、本学会から古沢理事、北見理事の2名を情報提供した（任命拒否問題後、法案提出問題があり先行きは不明）。
- ・委員会間、会員一委員会間での意見交換、交流に齟齬が生じたケースが共有された。
 - － 委員会開催などの開催頻度を上げることで解消していく必要性が指摘された。
 - － その一方で、委員会外からの意見交換・調整への対応については課題が残された状況にある。

審議・協議事項など

1. 入退会

- ・退会 2名（岡部光明さま、加藤憲一さま）について承認された。

2. 2023 年度大会企画について

1) Web 開催の準備

- ・事務局から大会の Web 開催準備案が説明され承認された。
- ・Zoom 会場は、(1) 総会、(2) シンポジウム、(3) 研究発表(A)、(4) 研究発表(B)、(5)WS (A)、(6)WS (B) の6つを用意する [その後、報告申込者数に合わせて調整された。詳しくは本 NL の「I. 第17回研究大会について」を参照]。
 - － それぞれミーティング番号を割り当て、各回終了後に各会場を閉じる。
 - － 名簿記載の氏名でのログインを要求し、待合室を ON にし、係が名簿確認しつつ入室管理をする。
- ・シンポジウムと WS は一般公開で実施し、総会は会員限定とする。
- ・研究発表は事前申し込みがあれば非会員も可とする。
 - － 会員の参加申込には、一つの申込で六会場すべての Zoom 情報を提供する。
 - － 非会員からの申込には、シンポ1件、WS2件の Zoom 情報を提供する。
- ・3月のNLで参加申込HPを案内する。但し「参加申込は開催1か月前から」と注記する。
- ・またNLで常勤職にない若手会員に大会運営の有償協力を呼びかける（個人的な呼びかけもおこなう）。
- ・5月の大会プログラムで再度参加申込HPの案内をおこなう。
 - － ログイン時の氏名表示を注意喚起する。
- ・6月1日から一か月間、Zoom アカウントを追加契約し、計2チャンネルで開催する。

2) 研究発表およびWS

- ・研究発表は非会員からの申込一件をのぞき9件を承認した。
- ・ワークショップは三件の申し込みがあり、各WSの申請者から口頭説明の後、開催時間を調整することを条件に三件が承認された。事務局から大会の Web 開催準備案が説明され承認された。

3) 日程案

- ・研究発表は第2日目午前(9:30～12:45)に2教室で開催する（後日に時間調整）。
- ・WSを三件かつ同時開催とならないよう日程を組む。近日中に各WSの申請者間で協議する。

3. その他

- ・研究発表の申込は、現行の400字の方が申込者には利用しやすいが、事務局の負担を考えればそのまま発表要旨として使える様式（1,200字）としてもよい。事務局判断に任せることとなった。

第5回 2023年4月22日(土)13:15～15:45 運営委員会（理事参加歓迎）

第6回 2023年5月or6月 研究大会第一日目もしくは直前頃 理事会・運営委員会

2022年度 第5回運営委員会（理事参加歓迎）

日時 2023年4月22日 13時15分～15時45分
場所 Zoom
出席 21名（役員表順・敬称略）
古沢広祐 黒須三恵 河上睦子 長谷場健 太田 明 河野貴美子 木村武史 鈴木伸国
本多俊貴 松崎良美 岩田好宏 蔭木達也 片山善博 鬼頭孝佳 菊池理夫 熊坂元大
楊 逸帆 柳沢 遊

報告事項

1. 事務局（鈴木事務局長）

- ・ 会計報告について
 - － 前年度決算を併記するとよい。
 - － 会費納入状況改善のための方策について
 - ・ 対面大会開催がなくなったことによる影響とその対策
 - ・ 前年度決算と比較して納入額自体は増加
 - ・ 年会誌発送時に納入状況と振込用紙を送付予定

2. 各種委員会報告、諸企画

1) 編集委員会（河上委員長）

- ・ 原稿を収集している状況である。17巻の編集をほぼ終えている。
- ・ 書籍紹介欄の募集について
 - － 学会書籍を紹介することとなった。
 - － その他、紹介希望の書籍がある場合は連絡を要する。
- ・ 投稿規定を変更する可能性について
 - － 改めて投稿者をお願いする必要がある。
 - － 投稿規定について、事務局と相談しながら進める必要がある。
 - － 投稿規定の開示には一年のズレが発生する。
- ・ 内規の変更について
 - － 査読に関する対応など、会員全体に関係する場合は運営委員会で審議する必要があることについて確認がなされた。

2) 出版企画委員会（中村委員長、河上委員より代理発言）

- ・ 初稿が出ている。
- ・ 大会前の出版と発送を予定。
- ・ 出版社には見積りを依頼中。

3) KW集発刊委員会（長谷場委員長）

- ・ 8つのキーワードが出てきている。
- ・ 第3稿、4稿を終えて、体裁が整いつつある。
- ・ 公募の継続は検討中。

4) 研究談話委員会（木村委員長）

- ・ 本日（4月22日）研究談話会を開催予定。
- ・ 7月に大江氏（帝人ファーマ、非会員）の報告を予定。

- ・ 9月か10月に倉本先生（明治大学）に報告を依頼する予定でスケジュールを調整中。
- 5) 広報委員会（太田委員長）
 - ・ トップページの変更の検討を進めている。
 - － メニューを階層化。
 - － メニューツリー案。
 - ・ どの程度まで、どのように変更すべきか要相談。
 - ・ 階層が深くなりすぎない範囲で調整を検討。
 - 6) 若手委員会（本多委員長）
 - ・ オンラインジャーナルに原稿を提出。
 - ・ 来年度WSの検討。「持続可能性を問い直す」というテーマで準備を進めている。
 - 7) 「ハラスメント規約準備委員会」の構成員（候補）（河上副会長／本多委員長代行）
 - ・ 総合人間学会がハラスメントをどう考えるかを示す「宣言」を作成中。
 - － 6月末までの公開を目指している。
 - － 宣言の草案は作成済みで、現在その再検討に取り組んでいる。
 - 8) 「学会運営・会則等検討委員会」報告（黒須副会長）
 - ・ 学会運営・会則等の検討について意見をまとめ、各委員長らから回答を得ている。
 - － 検討委員会で検討を進め、大会前の臨時委員会での審議を予定している。
 - ・ 個人情報保護の再検討と、システムの活用を呼びかける。
 - － 年齢は回答必須項目だが、性別欄については「その他」欄を設けることはシステム上可能。
 - － 会員にもシステムの活用を求めていく方針。
 - ・ 役員選挙制度の検討を進めている。

審議・協議事項など

1. 入退会

- ・ 入会者2名（横山智樹氏、江頭早紀氏）、退会者2名（高橋豊子氏、小方宗次氏）が承認された。

2. 運営等

- 1) 学会設立に貢献された名誉会長お二人に関する追悼文集作成について。
 - ・ 次年度計画にて、会長・副会長の声かけで追悼文集企画委員会を立ち上げて、関連論集の依頼や編集を行う。集まった文集の状況をふまえ、学会電子ジャーナルにて特集企画とするか特別号などを出すか等は、編集委員会と今後相談しながら検討する。
 - － 追悼文集という総合人間学会の過去を振り返るものだけではなく、再生、未来志向を踏まえた内容の特別号としてはどうか。
 - － キーワード委員会は10周年記念で出そうとしたもので断念している→何かを企画する場合は、どのように持つとよいかはよく考える必要がある。
 - － 企画はやれるとよいが、文集を作るとなると誰がどのように音頭をとるのかなどが難しい。
 - － 改めて企画内容を再検討して継続審議。
- 2) 6月大会での国際ワークショップ企画で、今後の学会活動の国際連携・交流強化を想定して、特別に海外からの報告者への謝礼として、学会誌（最新版）の謹呈と1年間の学会員資格（ジャーナルへの投稿などを想定）を進呈することにしたい。
 - ・ 現状では学会員資格を進呈するなど規定上難しいが、新しい会員資格の規定の設定を検討してもよ

いかかもしれない。

- － ジャーナル投稿については、依頼原稿という形態で進めることが可能。
- － 2023 年度大会については、①一般公開の対象になっていない企画についてのご招待、②書籍版の進呈をお礼とする。
- － ワークショップの報告の枠がオンラインジャーナルに残されている。
- － 大会企画の準備で海外報告者への大会参加や学会誌進呈などは進めるとして、学会員資格の対応については会則規定外なので今回は行わない。

3) 学会活動の活発化、とくに若手学会員の活躍・育成の契機になるよう、研究部会活動を呼びかけて支援したい。想定としては、各種テーマでの研究部会や文献講読会などを主体的に準備し運営する活動への支援。研究部会の企画申請は、事務局で受け付けて、運営委員会にて承認する。支援内容としては、当面はオンライン zoom 会合設定の協力など。将来的には講師謝礼の補助等も検討したい。

- － ZOOM での開催は、新規参入者にとって敷居を感じる要因になっている。今後のやり方についてはいろいろ検討できるとよい
- － ZOOM は便利だが密度が違う。できればハイブリッドを設定していく方向性を考えられるとよい。
- － 現在学会の ZOOM アカウントはプロの設定だが、ビジネスの設定にすると、少し会議を立ち上げやすくなる可能性がある。
- － 別途、若手の希望で何か委員会を立ち上げるにせよ、研究談話委員会との関連をどのように位置づけるのかが難しい。希望者は、研究談話委員会の中に入って企画を進めるとスムーズではないか
- － 内容について再検討するとともに議論を継続したい。

4) 理事辞任

- ・ 理事より辞任の希望が伝えられた。
 - － 年度任期と役員任期の確認をしたうえで対応する必要がある。
 - ・ 役員任期は満了していただくのが望ましいので、会長・副会長から子細相談する。
- ・ 会則改定に伴い、こうした事例についてどのように対応するかを盛り込むとよい。

3. 2023 年度大会企画について

1) 今後の準備について

- ・ NL の発送。
 - － 申し込み方法や会費情報を含める。
 - － 会員と非会員で参加できるものに違いがあることを示す。
- ・ ホームページ上に参加申し込み情報などを掲載。
- ・ 予稿集の作成と発送。

2) 大会・総会前に、臨時委員会の予定を調整する。

- ・ 会計に関する確認。
- ・ 制度・規定改革に関連して委員会活動などについての確認・整理。

3) その他

- ・ 次年度大会の開催予定について。
 - － 会則改定に関するアンケートの回答に対して応答する必要性を確認。
 - － 大会時に、希望を募るような方針を検討。
 - － 開催方式の検討。
 - ・ ハイブリッドで開催する場合の開催場所について。
 - ・ 大学施設の多くが利用料がかかる。

- ・ 参加者見込みに応じて予算の変動あり。

臨時運営委員会を5月中頃に開催予定

Ⅲ. 事務局からのお知らせ

- 1) Newsletter のメール配信について： Newsletter は、41号から郵送事務と経費削減のために、電子メール登録のある会員の皆さまには、電子メールによる配信をさせていただくこととなりました。Newsletter の発行にあわせて、学会ホームページ(HP)に、Newsletter が配信された旨告知し、会員の皆さまに電子メールでの着信をご確認いただくことといたしました。お使いのメールによって、迷惑メール等へ振り分けされるケースがありますので、見落としされませんようご注意ください。学会からのメール配信で不着信につきましては、学会事務局までご一報ください。
- 2) 会費納入状況などの確認は、学会のHPの「会員限定」のところにあり、「会員用マイページ」へのアクセスで、各個人限定の閲覧にてご確認ください。
会員限定のマイページにアクセスする際は、2020年7月1日発送のNewsletter 39号(2020年6月27日発行) 送付時に同封された書面、各人の「会員情報システム・ログイン情報」に記載されたIDとパスワードにてアクセスしてください。
- 3) 会員の皆さまへの会費納入の案内は、書籍版・機関誌の発送時にて、「宛名ラベル」での会費告知と振替用紙の同封の送付の際にて、行わせて頂くこととなりました。ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。
- 4) 学会誌・書籍(普及ブックレット)版のご活用について、学会活動の貴重な成果が掲載されておりますので、ゼミ演習等でのテキスト利用など、ぜひご活用と、ご協力頂きますようお願い申し上げます。
- 5) 年度内の今後の運営委員会・理事会の日程は以下の通りです。
第5回 2023年4月22日(土) 13:15~15:45 運営委員会(理事参加歓迎)
第6回 2023年5月 or 6月 研究大会近くにて予定 理事会・運営委員会

* 昨年度からオンライン会議による開催を踏まえて、従来の運営委員会を理事の自由参加として運営委員会・理事会として行ってきました(2021年度)。2022年度も基本的には同様なのですが、会議名を明示しました。運営委員会(理事のオブザーバー参加歓迎)ということで、会議開催は理事メール宛としてご案内いたします。
- 6) 第22回総合人間学会関西談話会開催のお知らせ
第22回総合人間学会関西談話会を以下の要領で開催しますのでご案内申し上げます。

記

日時： 2023年7月16日(日) 午後1時半~4時半

会場： 京都市左京区役所総合庁舎会議室1B

京都市営地下鉄「松ヶ崎」駅から徒歩8分

(2番出口から南へ約400m、一つ目信号を東へ約200m)

Tel: 075-702-1000

www.city.kyoto.lg.jp/sakyo

発表1： 上柿崇英「(自己完結社会)論と「現代人間学」の方法論」

発表2： 河野勝彦「ロイ・バスカーの批判的実在論：自然科学と社会科学の違い」

なお、コロナは下火とは言え、マスクを着用するなど感染対策にご留意の上、ご参加下さい。
また当日は祇園祭の宵山に当たりますので市中は混雑が予想されます。

以上（一般来聴歓迎）

学会誌販売のご案内

総合人間学会誌『総合人間学』の以下ラインナップを、学会の在庫分にかぎり

1冊 **特価1000円**（送料別）にて販売いたします！

購入ご希望の方は、注文冊数、送付先を学会事務局までメールまたはfaxにてお送りください。

第13号 『科学技術時代に総合知を考える——文系学問不要論に抗して』
第12号 『〈農〉の総合人間学』
第11号 『人間にとって学び・教育とは何か——未曾有の教育危機に直面して』
第10号 『コミュニティと共生——もうひとつのグローバル化を拓く』
第9号 『〈居場所〉の喪失、これからの〈居場所〉——成長・競争社会とその先へ』
第8号 『人間関係の新しい紡ぎ方——3・11を受け止めて』
第7号 『3・11を総合人間学から考える』

【本件連絡先：学会事務局】

・Eメールアドレス contact@synthetic-anthropology.org

（事務連絡）

＜＜ 学会費の納入お願い ＞＞

*総合人間学会・年会費、2022年度の振り込みがまだの方は、お振り込み下さい。学会誌（書籍版）送付時に振り込み用紙を同封、見当たらない方は郵便局の振込用紙にてお願いします。

（過去年度未納の会員の方は、早急にご対応のほど宜しくお願い申し上げます）

*会計年度としては、4月からは2023年度となりますので、2023年度の学会費につきまして、早めの納入をお願いいたします。6月研究大会の前に、学会誌『総合人間学17』の刊行・送付を予定していますので、同封の振込用紙をご利用ください。

学会費：一般：7,000円・減額：4,000円（減額は申請者のみ：学生や非常勤職などへの配慮）

・加入者名：総合人間学会 口座記号番号：00180-2-579072

① 郵便局そなえつけの振替用紙、② ATM 送金、③ 電子振込み、に対応しています。

◆ひろく学会員の門戸を開いておりますので、ご関心の方々にぜひ入会をお勧めください。

学会HP(入会案内)参照：http://synthetic-anthropology.org/?page_id=57